

# こうやった！ 目標地図の座談会

～試行錯誤の実践記録～

一般社団法人 会議ファシリテーター普及協会

代表理事 釘山 健一

副代表理事 小野寺郷子



今後の意向（10年間）	
・耕作者（後継者）：有	
・耕作者（後継者）：無	
・貸出希望：有	
・耕作者（後継者）：無	
・貸出希望：無	
・意向未確認	

# 目次

まえがき  
はじめに

## 第1章 地域計画策定の全体の流れ

1	言葉の定義	11
2	地域計画策定の基本的な流れ	14
3	愛知県蒲郡市の実践	15
4	素案と目標地図	17

## 第2章 「地域計画」策定に必要な7つのポイント

1	座談会の回数	19
2	2つの座談会	20
3	「将来像の座談会」と「目標地図の座談会」の違い	20
4	本質をはずさない地域計画策定の進め方	23
5	「地域」「農業」「農地」の3つの視点を意識する	25

6	地域計画を創る主体となる地域の組織……………	27
7	「案」ではなく、まず「たたき台」……………	28

### 第3章 地域計画を創るときの9つの思い込み

誤解1	地域計画は農業委員・推進委員で創る……………	31
誤解2	案を創ってから説明会を開催する……………	32
誤解3	地域計画とは目標地図を創ることだ……………	33
誤解4	全集落で話し合いをしなければならぬ……………	33
誤解5	令和7年3月31日までに創るのは無理だ……………	34
誤解6	担い手がいないから地域計画なんて創れない……………	35
誤解7	農業委員会が作る目標地図の素案は、完成版の目標地図と同等のものを創らないといけない……………	35
誤解8	地域計画は地域の農業者の全員の同意を取らねばならぬ……………	36
誤解9	目標地図は集約（ゾーニング）までしないとイケない……………	36

### 第4章 目標地図の座談会の事前準備

1	スタッフ全員で進める役割分担……………	37
2	わかりやすいチラシを創る……………	42
3	説明会の前に「説明の場」……………	42

## 第5章 「目標地図の座談会」の2時間の流れ

4	参加者の集め方が「土台」を作る.....	45
5	会場の飾りつけと模造紙の資料.....	49
6	座談会で使う「意向地図」のコツ.....	54
1	アイスブレイク.....	57
2	主催者挨拶.....	60
3	1回目の振り返り.....	60
4	つかみの話＋拍手の練習.....	63
5	グループの自己紹介.....	65
6	座談会の3つのルール.....	67
7	本日の進め方の説明.....	69
8	意向地図の見方の説明.....	70
9	付箋に書きだす.....	71
10	共有する.....	72
11	グループの発表をする.....	76
12	再びグループで話し合い「まとめる」.....	77
13	プレゼント大会.....	77
14	アンケート.....	79

## 第6章 目標地図の座談会の成功の極意

1	最初に「将来像の座談会」をやり、それから「目標地図の座談会」をやる……………	81
2	全員が発言できる「MFA型座談会」がベース……………	82
3	「協働」の発想で創る……………	84
4	いろいろな方法で情報を集めて創る……………	88
5	目標地図の座談会は「情報を集める」のが目的……………	90
6	市町村・地区の実態に合わせて創る……………	91
7	中心になる人（行政職員と地域のキーマン）がきちんと研修を受ける……………	93
	■参考資料……………	102
	おわりに……………	104

# 第1章 地域計画策定の全体の流れ

## 1 言葉の定義

「地域計画を策定するためには策定の「全体像」を理解し、その中で「目標地図の座談会」をどのように開催していくかを考える必要があります。全体像については、既存の農水省のマニュアルや全国農業図書に詳しく書かれていますが、そこで使われる言葉の意味を整理しておかないとわかりにくい部分があります。

そこで「全体像」の説明の前に、農水省のマニュアルや全国農業図書でよく使われている基本的な「言葉の意味」を確認しておきたいと思います。

### ■「MFA」

MFAとは私たちの協会「一般社団法人会議ファシリテーター普及協会」のことです。

・ Meeting (会議)

・ Facilitators (進行役)  
・ Association (協会)

### ■「MFA型座談会」

MFA型座談会とは、当会がオリジナルで開発した「対話の場(座談会)」のやり方のことです。最大の特徴は「参加者が全員発言できる」ことです。MFAが開発したスキルを「MFAメソッド」といい、既存の会議のテクニクと比べて、全員が発言できるということに関しては、ここまですkill化されているところはないと考えています。もう一つの特徴が、研修を受ければ素人でも自分たちでできるようになるという「誰でもできるスキル」ということです。

### ■「ファシリテーター」

ファシリテーターとは「話し合いの進行役」の

ことです。「進行役」とは、今までの会議では「議長」のことです。同じ進行役でも、議長は話し合いをどんどん仕切って進めていくのと違い、ファシリテーターは「参加者の思いを引き出しながら進めていく進行役」のことです。そして、座談会の話し合いを進行する場合は、議長型よりもファシリテーター型で進化したほうが良いということ

です。

\*実は、ファシリテーションには2種類あります。

既存のファシリテーションを「欧米型ファシリテーション」と呼び、MFAオリジナルの全員発言を目指すファシリテーションを「日本型ファシリテーション」と呼びます。

\*議長とファシリテーターの違いについてはここでは詳しくは書けません、既刊の『全員が発言する座談会が未来の地域集落を作る』理論編』を参照してください。そちらに詳しく書いてあります。

## 【注意する言葉】

次にあげる言葉は複数の意味がありますので、マニュアルや図書を読むときはどちらの意味かを確認しながら読むようにしてください。

### ■「協議の場」

「地域の話し合い(座談会)」なのか「関係者(関係機関)の話し合い」なのか？

どちらも「協議の場」とか「協議する」という言い方になっていることがありますので、注意してください。

法律の「協議の場」とは、いわゆる「地域の話し合い(座談会)」を指しています。

### ■「説明会」

「地域の人を集めた説明会」なのか「キーマンに説明する『説明の場』」なのか？

この2つは全く違います。

一般的な「地域の人を集めた説明会」はかなり難しく、場合によると荒れることもあります。

「キーマンに説明する 〃説明の場〃」は、地域計画策定の協力を地域のキーマンに個別に頼むもので、これを「説明の場」といいます。「説明の場」をじっくりやるのが地域計画策定のためには大事ですが、この2つの意味がごっちゃになっていることがよくありますので要注意です。

## ■「座談会」

「地域計画の座談会」には、2種類あります。

「将来像の座談会」と「目標地図の座談会」です。

このことを理解して実践していくことが大事ですので、マニュアルや図書を読む場合は、どちらの座談会のことを指しているのかを意識してください。

\*2つの座談会については、本文で詳しく説明します。

## ■「担い手」

「担い手」という言葉を使うとき、次の2つの意味があることに気を付けてください。

・「一般的な意味」の担い手（農業者又は農家）  
・「大規模な経営体」を指す場合

特にマニュアルや図書で「担い手」という言葉がでてきた場合、どちらの意味かを意識して読んでください。

\*ちなみに、今は「担い手」という言葉だけでなく、「農業を担う者」という言葉も使われていますので、この2つの言葉の意味を理解するようにしてください。